

第2回

南相馬市まち・ひと・しごと

創生有識者会議

会 議 録

南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議

第2回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

会議の名称	第2回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議			
開催日時	平成27年7月4日(土) 13時30分開会・15時40分開会			
開催場所	南相馬市役所 本庁舎3階 第1会議室			
委員長	高木 亨(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)			
委 員	移住者代表 副委員長		武藤 琴美	
	原町青年会議所	理事長	杉内 亜希	×
	原町青年会議所	総務委員会委員長	和田 智行	×
	小高商工会	青年部長	片岡 太成	×
	鹿島商工会	青年部長	若松 真哉	
	原町商工会議所	青年部副会長	松本 卓真	
	原町地区連合会	議長	諸橋 誠敏	
	A.C.ハマーズ 2001	副会長	原田 正己	
	A.C.ハマーズ 2001		仲野内 勇作	
	ひよこサークル		福崎 歩未	
	原町第一小学校PTA	会長	谷田部 真敏	×
	あぶくま信用金庫本店営業部	融資係主任	遠藤 敬志	×
	移住者代表		鈴木 聡子	×
	南相馬みらい創造塾	卒業生	佐藤 まゆみ	×
事 務 局	南相馬市	市長	桜井 勝延	
	復興企画部	部長	安部 克己	
	企画課	部次長兼課長	植松 宏行	
		課長補佐 兼企画係長	涌井 秀之	
	企画係主査	藤原 道夫		

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 市長あいさつ

4 協議事項

- ・ 協議事項に入る前に、前回欠席であった諸橋委員、原田委員、仲野内委員より自己紹介。

(1)(仮称) 南相馬市地域創生総合戦略の施策の検討について

企画課主査

資料に基づき説明。

委員長

ただいま説明にあったように、話は多岐にわたるが、まずは3つの基本目標について、事務局から提示された案について、何か意見はあるか。

(特になし)

委員長

特になければ、P5の下段「4.基本目標別施策」に絡めて、皆さんが抱えている悩み、または拳がっている施策ではニーズに合っていないとか、使い勝手が悪いとか、自由に意見を言ってほしい。

委員

基本目標 若い世代の定住の促進 商工業の再興 企業誘致の推進の・戦略的な企業誘致活動の推進に関連して、誘致する企業は働きやすい職場であることが重要だと思う。自分の経験から言うと、コールセンターという職場があるが、柔軟なシフトや子どもが病気だから休むといったことがとてもしやすい。誰かが休んでもほとんど問題なく業務が進む。そういった職場はとても働きやすかった。

この地域にはそういった職場がない。そういった企業を戦略的に誘致することで、若い人たちが働きやすくなり、商工業の再興につながるのではないかと考える。

次に 観光交流の推進の中に 馬事文化を核とした観光開発とある。相馬野馬追は馬に興味のある人だけでなく、歴史や文化に興味を持つ人にとっても魅力的なものと考ええる。馬事文化というところをもう少し細かく掘り下げ

て市外の人に伝えることで、もっと多くの人の関心を得られると思う。

委員長

原案には仕事の話は多く挙がっているが、移住者の受け入れ側の体制の話も必要だと思う。来てもらうためにはどうすればいいのか、来てもらったときに何ができるのか。住宅の話も少し挙がっているが、若い人たちが南相馬を選んで、初めて来たときに話を聞いてもらえたり、住むところを紹介してもらえたり、人のつながりをそこである程度紹介してもらえたりといったところをワンストップでできるような場づくりといったことがここに加わると良いと思う。

委員

確かに働きやすい職場があれば魅力的であるというのは間違いない。ただ、働きやすさは働く側の感じ方であり、どこまで行けば働きやすいと感ずるのかというのは線引きが難しい。今ある企業の職場環境が働きにくいとすれば、働きやすい職場にしていこうという活動もできると思う。そういったところに労使だけではなく官も働きかけていくことで魅力のあるまちづくりにつながるものと考ええる。

子を持つ親が働く場合、子どもを預かってくれる受け皿が必要となるが、様々な働き方が出てくると、受け皿に対するニーズも様々になり、対応できる場所がなければ安心して働くことはできない。まちのしくみとしてそういったニーズに対応できれば、働きやすいまちとなるものと考ええる。

委員長

長時間労働の問題がある中で、家の中で人々がよりよい生活を送るということは非常に大切なことだと思う。

委員

どういう企業に来てほしいかと言われれば、託児施設が完備された企業に来てほしい。ただ、託児施設を設けるとなればお金も人も必要となるため、それなりに大きな企業となる。さらに言えば誰もがこの会社はつぶれないだろうと思えるような企業に来てほしい。電力会社あたりが理想であるが、例えば太陽光など新しいエネルギーを扱う企業に来てもらえれば、脱原発を推進する意味でもいいと思う。

子育てをする立場からすると、産後の支援が少ないように思う。制度上男性も育児休暇を取得できるが、実際は取れなかったり取りづらかったりする。男女平等と言われるが、育児に関してはやはり母親への負担が大きい。男性が育児休暇を取りやすい企業に南相馬へ来てほしいし、市全体としてもそのようになってほしい。

委員長

企業の託児施設という観点では、例えば保育士を派遣するなど、企業にすべて任せるのではなく行政とうまく連携しながら環境を整えていくという方向もあると思う。

男性が父親になるときの教育ということについては、行政がやるべきかどうかは別として、イクメン関係の団体や企業と手を組んで、みんなで子育てをしていこうという環境をつくっていくことも必要ではないかと思う。

委員

関連して、ママの間でよく話が出るのが、父子手帳を希望するママに交付してほしいというものである。例えばシングルマザーの人はパパになってほしい人に父子手帳を渡す。私が母子手帳をもらったときに、夫からうらやましいと言われた。それは母子手帳をもらうことで、世間から「母と子」と認められることから。父親の自覚を早く芽生えさせるためにも有効だと思う。震災前に飯館村では交付しており、南相馬市でも交付されるといいと思う。

委員

今の話を聞いて、子育てはママの仕事という固定観念があるが、「南相馬市はシングルファーザーも暮らしやすいまち」ということを打ち出すのもいいかもしれない。

難病や障がいを持つ子どもが生まれてくると、離婚率が高くなる傾向がある。その結果シングルマザーが生まれるケースが多い。そこには父親の自覚の問題や固定観念があり、意識改革はすごく難しいと思うが、男性が父親としての自覚を持てるような取り組みが南相馬市でできれば、すごいことだと思う。

委員

20代・30代の多くが避難している南相馬市では、子育てのために休みが取れないというのが実情だと思う。大企業であれば穴埋めもできるだろうが、中小企業では体力的に厳しい。そういったところに対して行政から支援があれば状況は変わると思う。

子育てに関しては、病院に行くのも大変。難病や障がいがあると、小さなものでも地元の医療機関では診てもらえない。このような状況は、親としてはやはり不安である。知人の中にも医療環境が原因で市外に引っ越した人もいる。高齢者を対象とした取り組みが目立つが、若い人、働く人が住んでいていいなと思えるものが必要だと思う。

農業の面では、つくっても売れないという面が先行し、売ってもいないのに売れないという人が多いというのが現状。つくっても食べてもらえない、風評被害で値段も安いということで、生産意欲が低下している方が多いと感じる。特に地元の給食で使われないというのが精神的にはこたえる。市で実

施した給食に関するアンケート結果を見ると、多くの割合の方が気にしないで食べると答えているが、ごく一部の不安を感じるという方の意見が尊重され、実際には給食では扱われていない。学校給食に使うとなれば、確かに最初は風当たりが強いだろうが、だからといって何も動き出さなければ農家としては辛い。

こういったことは農業の担い手にも影響してくると思う。なぜ農業高校があるのに、市内の農業が廃れるのか。せっかく高校で農業の知識を学ぶので、農業法人のような受け皿があればそこでさらに知識や技術を身につけて、体力がつけば自立という流れもできてくると思う。

南相馬はどんなにがんばっても東京にはなれない。やはり本市にとって農業は大きな産業であり、農地も多くあることから、何らかの手立てが必要だと思う。

委員

農業法人の話があったが、私は今法人を立ち上げようと動いている。家が農家なら親から教わりながらということもあるが、非農家の方が農業高校を出たからといって一から農業を始めるのはリスクが大きい。まずは法人に入って研修を受け、法人のバックアップを受けてゆくゆくは自立という流れをつくっていければと考えている。

野菜の生産法人では、メインとなる働き手は男性ではない。出荷調整をはじめメインとなるのは主婦層や子育てを終えた女性である。最初の計画では託児施設を併設したかったが、資格等の関係で今のところ実現していない。

現在、南相馬市の野菜は買ったたかれているため、正直なところ賃金は安いと思う。他の企業並みの賃金にすると、法人自体の体力が持たないため、そういったところへのバックアップがあれば、農業法人はもっと増えていくと思う。法人が増えれば連携もでき、メニューが増えることで若い人も入りやすくなると思う。

委員

資格を持たない方が一定の研修を受けた後に自宅などで子どもを預かる「保育ママ」という制度がある。知らないだけで、探してみると子どもを預けるサービスはほかにもあるかも知れない。

委員

子育てを他人に助けてもらうことを悪く言う人もいる。ママ世代ではしっかり保育の教育を受けた人に預けたいため、保育所に預けたいというニーズが高いが、お姑さんは自分が家にいるのだから、自分に預ければいいと言う。ただ、育児の仕方も昔とは大分変わってきていて、どうすればいいかわからないというママ世代の話聞く。

市長

南相馬市では、昨年度から幼稚園・保育園を無料化している。サービスを充実することで利用者が増えれば、保育士を確保する必要が出てくる。通常保育士は若い女性が中心だが、若い世代だけでは確保できないため、OBの方をお願いすることとなる。

育児の仕方が昔と違って進化しているという話があったが、むしろ劣化しているように感じる。人間力が衰え、やる気がなくなり、人のせいにする人が多い。そこから脱却しなければ本来の意味での幸せは獲得できないと思う。

先ほど仲野内委員から、作物をつくってもいらないのに売れないという話があった。やる気がないとしか思えない。ヨークベニマルやイオンなど大手とは、取引ができるというところまで確約している。売れないというのは間違いで、売らないだけである。消費者も千差万別で、絶対買わないという人もいれば、買ってくれる人もいる。買ってくれる人に対して売ってあげればいいだけの話である。しっかり検査して、これだけのものを持ってきていると説得すればいいだけの話。

先ほどパートタイマーの話もあったが、女性労働者が足りないことで今一番困っている。女性労働者を確保するために様々な施策に取り組んでいる。一番取り組まなくてはならないのは原発事故由来による生活不自由の払拭であるが、すごく難しい。だからといって国に要望しても解決するものではなく、我々自身で解決していかなければならない。

委員

誤解があったら申し訳ないが、我々世代が親世代に子どもを預けたくないわけではない。より子育てについて学んでいる方に預けたいということである。

市長

現在核家族化が進み、家庭内で話し合う機会がどんどん減っている気がする。課題を解決するために言うべきことは言い、話を聞くべきときは聞くということが大事だと思う。

委員

私が2011年にここへ来て、はっきり変わったと感ずることが一つある。当初は放射能の説明会等があっても、女性は誰一人手を挙げなかった。それは女性が疑問を持たないということではなく、終わった後に講師のところに質問のために並ぶということがずっと続いていた。なぜそうするのかと尋ねたところ、そういうところで女性が意見を述べるのはあまり好ましくないとの答えが返ってきた。

それが今ではNPOを立ち上げている女性もいれば、小高区で会議を開催しているリーダー格の方も女性である。女性の意識がすごく変わったと感じ

る。それは、全く今まで経験したことがないことを壁をつくらずに自分のものとして受け入れることができた人はすごく変わることができたと思う。そういうきっかけを与えることで人は変われると思う。

委員

大企業に来てもらうことは雇用も税収も増えいいことだとは思いますが、撤退というリスクもある。基本的には地元の中小零細企業ががんばらなければいけないと思っている。地元の企業への支援も考えてほしい。馬力もやる気も地元企業のほうがあると思う。

現在地域の賃金が上がっており、企業としては厳しい面もあるが、賃金が増えること自体はいいことだと思う。今後長期間東京都同等以上の賃金水準が続けば、自然と人が集まってくると思われ、公共事業を積極的に実施することなどにより、賃金が増えるような取り組みをしてほしい。

委員

今「内職バンク」がのどから手が出るほどほしい。内職バンクとは、これまで自分がやっていた軽作業を、普段家にいる主婦層などに内職としてやってもらうための人材バンク。そういった活動を行おうと考えているNPOが市内にあるようなので、もしそこが手を挙げれば、市として支援してほしい。託児施設を設けるとなると多額の費用も発生するが、家で内職すればその費用もいらない。

私の店はこれまで家族経営だったが、最近65歳のパートタイマーを雇うようになって、ようやく自分の時間が持てるようになってきた。現状の南相馬市では時間を持て余している高齢者の方が多く、若い世代の定住ももちろん大事だが、喫緊の課題を解決するためには、高齢者の協力をもらうことも重要だと思う。

委員

まちを眺めると、高校生の数が少なくなったように感じる。

委員

先ほど地元の農作物が給食で使ってもらえないという話があったが、私も震災直後は給食で使ってもらえなくなるのではないかと思っていた(市内で味噌店を経営)。そのため、当時から放射能検査を可能な限り行い、その結果継続して納品してもらってきた。それは安全だという実績を積み重ねてきたということもあるが、自分の生業を何とかして守らなければならないというモチベーションの高さによるものだったと考えている。南相馬市を取り巻く環境からネガティブになるのではなく、前向きに取り組むことが大事だと思う。

委員

農作物について、地元での消費が進まないと需要と供給のバランスが崩れ、自分のところで出荷した作物の影響で自分が出荷した作物の価格を下げる事となる。そうすると、耕作面積を増やしたり生産量を増やす意欲がなくなっていく。

委員長

いろいろ意見が出された。今回のまち・ひと・しごとの取組の主眼は、人口をいかにして維持していくかということところだと思う。人口を維持するためには、まちに魅力がなければいけないと考える。南相馬市の住みよさについて、いいところや変えていったほうがいいところなどについて、意見を求める。

委員

外から来た者からすると、とても住みやすいところである。東北地方にこれほど住みやすいところがあるとは、想像もしていなかった。積雪がなく、気候も良く、交通も便利。農産物や海産物もおいしく、こんなにいいところをどうしてこれまでもっと宣伝してこなかったのか。「東北の湘南」と名乗ってもよかったのではないかと思う。

これまで私は仙台や塩釜には遊びに行ったことはあるが、南相馬は来たことがなかった。その理由は情報がなかったから。今回図らずも有名になったことから、外に向けて南相馬市の良さを発信する良いチャンスだと思う。

委員

駅前通りに駐車場が少ない。入りたいお店があっても駐車場がないために入れないこともある。駐車場が整備されればより住みよいまちになると思う。

委員

私自身平成8年に南相馬市に移住してきたが、当時と比べライフラインが充実し、常磐道が開通し、気候も良く、東北の中では住みやすい部類に入ると思う。また、震災前には世界サーフィン大会が開かれることもあったが、あまり知名度はなかった。

仕事や子育てなど、今までなかった魅力を付加していかないと、人を増やすというところにはつながっていかないと思う。

委員

当地域は気候が良いことから、農作物は周年つくることができる。さらに常磐道が全線開通したことで、首都圏等へのお荷もしやすくなった。その辺りを個人レベルでもPRするが、行政としても努めてほしい。今後はスーパーだけでなく、レストラン等外食産業との連携も重要になってくると思う。

委員長

実際に連携している例はあるのか。

委員

以前勤めていた会社では、そういう話はあった。逆に関西圏では産地を気にする企業もある。

委員長

熊本県水俣市のしらすは、今でこそ名物となっているが、水俣病が騒がれていたころはやはり敬遠されていた。そこで地元では水銀の量をきちんと測り、東京のものと比較したうえで売り込んだ結果今がある。やはりいいものは安全性が証明されれば受け入れてもらえる。

委員

実際以前勤めていた会社でも、震災直後から国、県、市場、第三者機関による放射線測定を行っており、これを積み重ねていけば販売については徐々に回復していくものと思う。あとはそれをどのようにアピールしていくか。だめな人は仕方ないにしても、南相馬のものをいいと言ってくれる人にいかに売り込むかだと思う。

委員

水俣市の有機無農薬作物は、現在ではブランド化している。

委員

ここの地域の作物はすべて検査していて安全だというのは、逆に強みだと考えている。現時点ではマイナスな部分でも、いずれそれが強みになっていくと思っている。

委員

南相馬市のいいところは、やはり気候である。雪も降らなければ、大きな地震もほとんどなく、台風の直撃もめったにない。生活環境としては田舎というだけで都会から来た人からすれば庭も広く、とても住みやすい。

あとはサーフィン。南相馬の海は波がいいということで、関東地方からわざわざ来る人もいる。震災前、北泉には公園やキャンプ場が整備されており、また整備し直せば一つの売りになると思う。

委員

子供の頃千葉に住んでいたが、千葉と比較していいところは空気がおいしい。また、海が近いというのは強みだと思うので、早く海水浴ができる海に

戻してほしい。

また、都会にないものとして「隣組」がある。いい面としては地域としての連帯感があり、一人暮らしの高齢者を気に掛けるなど、とてもあたたかいと思う。

反面、隣組では堀払いや清掃活動などのいわゆる「人足」という活動があるが、参加できない人は「かづけ」と呼ばれるペナルティーを支払わなければならない。かづけの相場や用途等について隣組によって一律ではなく、そういう意味では移住者の立場からはどの地区を居住地として選択するかで当たり外れがある。隣組自体は必要だとは思いますが、その辺りの整理は必要だと思う。できれば移住相談の際にそういった情報も聞けるとよい。

委員長

様々な意見が出された。いいところは伸ばす、悪いところは改善するのが基本。できるものとできないものがあると思うので、事務局で精査のうえ次回につなげてほしい。

(2) その他

委員長

次にその他として、武藤副委員長から提案があるとのことなので、お願いします。

委員

まず一つ目は、野馬追の宣伝について。市では現在「ひばりFM」を運営しているが、これはラジオだけでなくスマートフォンでも聞ける。ひばりFMでは、毎年相馬野馬追の生中継を行っている。つまり、スマートフォンのアプリで、相馬野馬追の生中継を全国どこでも聞くことができる。これをできるだけ早い時期に全国的にマスコミに情報を流し、多くの人に聞いてほしい。聞いてもらうことで、南相馬を離れた人に故郷を思い出してもらう、相馬野馬追の歴史や内容を知ってもらう、ひばりFMを取材してもらうという3つの効果が期待できる。

二つ目は、目標達成のためには市職員が知っておかなければならないことがいろいろある。必要な知識等を習得するための研修体制を構築する必要があると思う。また、危機状態にあった地域の話聞くことも有効だと思う。さらに、仕事上やったことのないことをやりながら成長を目指す「オン・ジョブ・トレーニング」も必要だと思う。

委員長

困難を抱える中でやらなければならないのは人を育てるということ。行政の職員は推進するための一つのエンジンである。職員が力をつけることは推

進するために有効なことだと思う。併せて事務局で検討してほしい。すぐに行えることもあるようなので、前向きに取り組んでほしい。

4 その他

(1) 次回開催予定について

事務局

次回については、8月29日(土)の開催を予定している。詳細が決まり次第早めにお知らせすることとしたい。

5 閉 会